

# JAPAN HICKORY GOLFING SOCIETY



## 日本代表チームがギネス世界認定

伝統的なゴルフスタイルの世界大会「ワールドヒッコリーオープンチャンピオンシップ」で3大会連続チーム最多優勝した日本代表チームがギネス世界認定され、18日、認定贈呈式が名古屋市東区名駅4の中日本興業本社で行われた。

日本代表チームのキャプテン、福本勝幸さん（一宮市、クリエイティブDM会長）、ジャパンヒッコリーゴルフソサエティ代表理事で中日本興業社長、服部徹さん、ギネスワールドレコーズ公式認定員、関岡智美さんらが参列し、関岡さんから日本代表チーム関係者に認定証が手渡された。

ヒッコリーはクルミ科の木材。頑丈で柔軟性と耐久性に富み、よく「しなる」のでゴルフ発祥の地、英国スコットランドで1400年代後半からゴルフクラブのシャフトに使われてきた。20世紀前半、スチールシャフトが登場するまで愛用され、現在でもニッカーポッカの伝統的ファッションとともにゴルフ文化の原点で、愛好者の人気は根強い。

世界大会は毎年10月、スコットランドで

開催され、世界18カ国の予選会を勝ち抜いた選手、約200人が国別チーム、個人男・女、プロ男・女など6カテゴリーで世界一を競う。日本代表チームは、国内8大会の成績上位4選手で構成し、2018年から参加。19年から3大会連続（2020年、21年はコロナ禍で中止）で優勝し、ギネス世界記録を樹立した。

昨年の代表チームは福本さんのほか、シンワ（稲沢市）社長、中畠克佳さん、中村歯科（伊勢市）院長、中村祐治さん、会社役員、浅沼仁史さんと中部地方のメンバーがそろった。

贈呈式で服部さんは「連勝はなかなか達成できるものではない。今年のチームに記録更新も期待したい」とあいさつ。福本さんは「欧米のチームも元気だが、我々は無理せず守りのゴルフ。責めないがチームワーク良く相談しながらだったが、天候や偶然にも恵まれた」と振り返った。また「ヒッコリーは芯に当て、しならせないと飛ばない。一本一本異なり、好みの硬さなど改造も楽しめる」と付け加えた。列席した中部プロゴルフ連盟会長、桑原克典さんも同ソサエティのメンバーで「失敗は多いが、どう克服するか考えて初めてうまくいく。研究と成熟度が必要。奥の深い面白いゴルフ」。



ギネス世界認定を掲げる服部代表理事と福本キャプテン



ギネス世界認定贈呈式記念撮影